

板橋区立上板橋第一中学校

改築に関する地域提言書

(案)

令和4年3月

上板橋第一中学校改築検討会

目次

はじめに.....	1
I 改築基本構想・基本計画に関する提言.....	2
(1) 地域が学校とどの様に関わりたいか.....	2
(2) どんな学校をつくりたいか.....	5
(3) 学校の配置.....	8
(4) 地域と学校の連携.....	11
(4) - 1 地域と学校が連携・協働する部屋.....	11
(4) - 2 地域連携・協働ゾーンの配置と校地の利用.....	12
II 参考資料.....	13
1 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）.....	13
2 活動経過.....	16
3 ワークショップの様子.....	17
4 「上板橋第一中学校改築検討会」検討委員名簿.....	20

はじめに

「上板橋第一中学校改築検討会（以下、改築検討会）」は、上板橋第一中学校のPTA、同窓会、町会、地域コーディネーター、学校関係者等によって構成される組織です。

上板橋第一中学校を改築するにあたり、「めざすべき新しい上板橋第一中学校像」をつくることを目的として、改築検討会は令和3年10月20日に発足されました。改築検討会では、上板橋第一中学校と地域の関わり方について協議をおこなってきました。

この度、改築検討会の中で出された意見を反映させた提言書がまとまりましたので、板橋区教育委員会事務局に提言します。

今後、新しい上板橋第一中学校が地域と連携・協働することで、生徒・地域に安心・安全を与え、地域とともに発展することを願っています。

上板橋第一中学校改築検討会

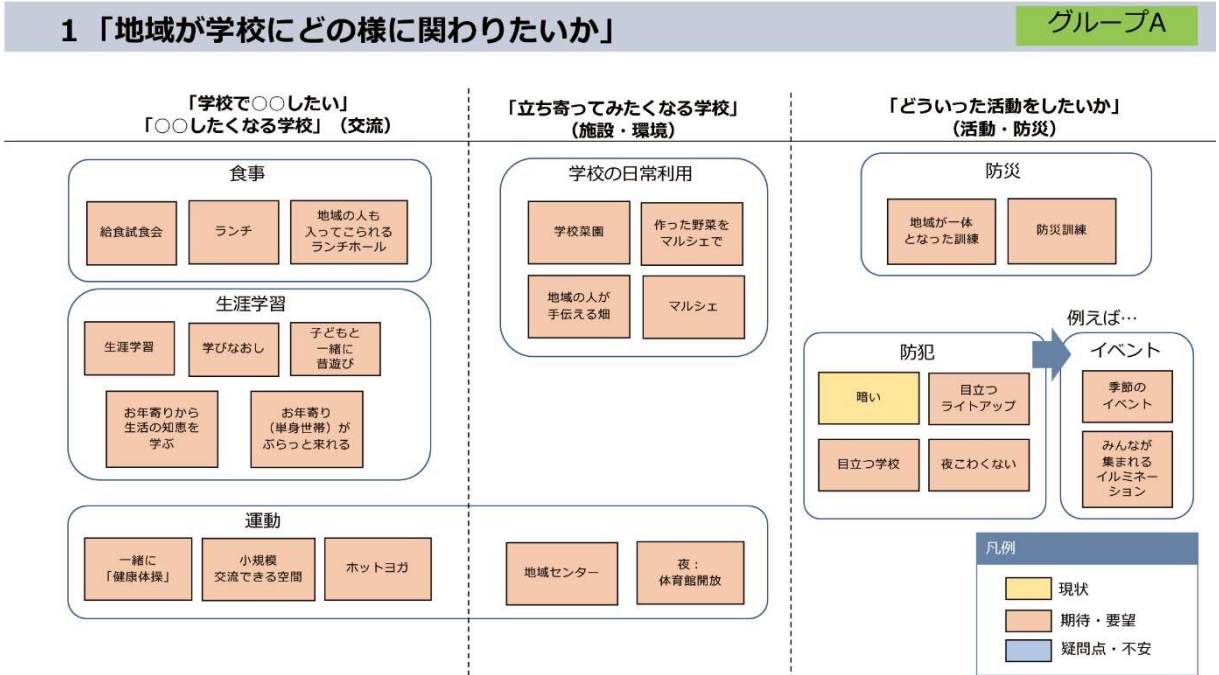


I 上板橋第一中学校の基本構想・基本計画に関する提言

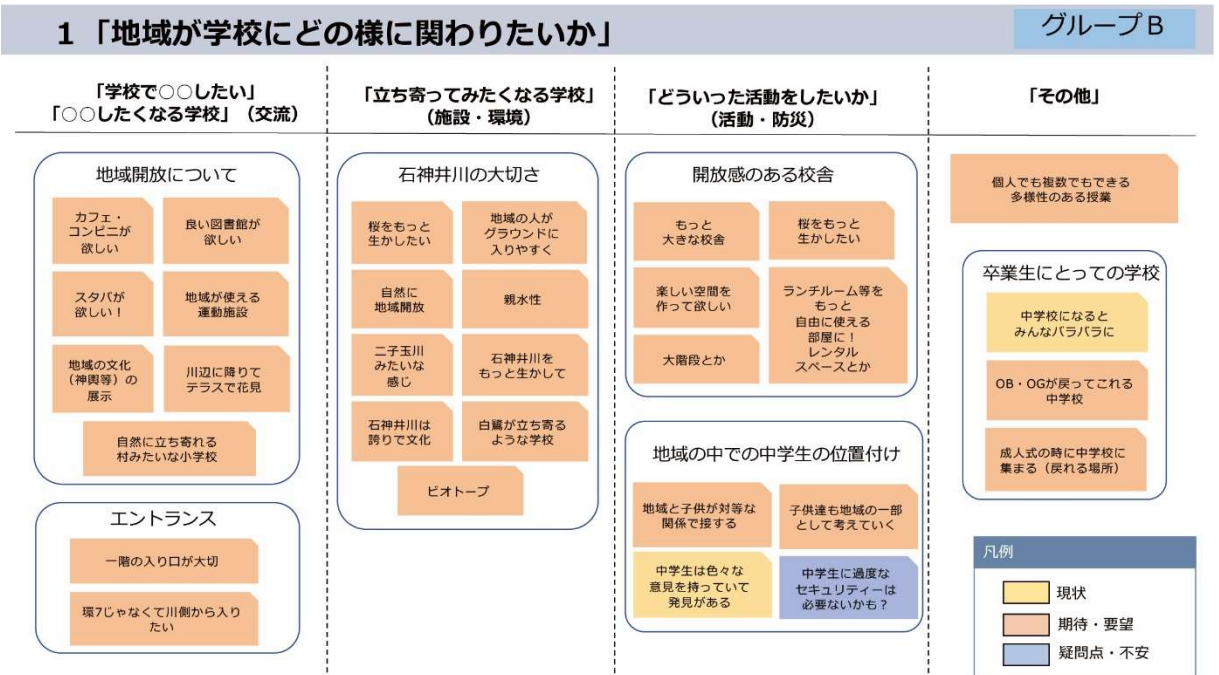
(1) 地域が学校とどの様に関わりたいか

「地域が学校にどの様に関わりたいか」をテーマにワークショップ形式で検討を行った。

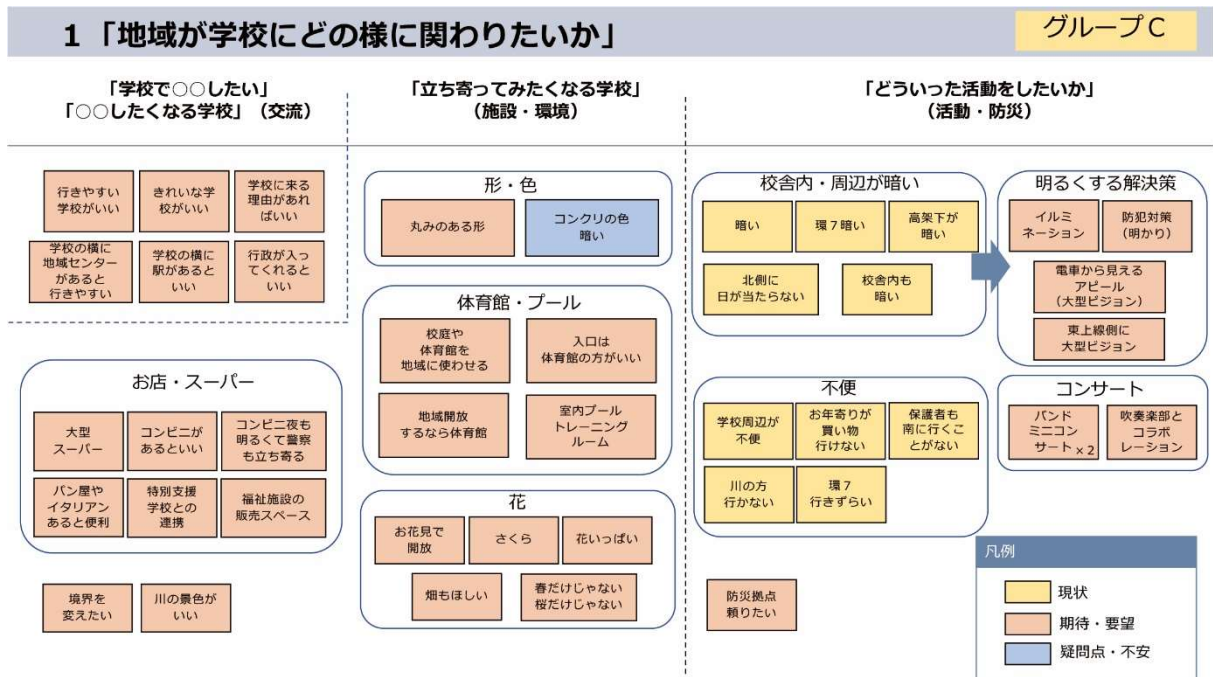
○グループAの意見



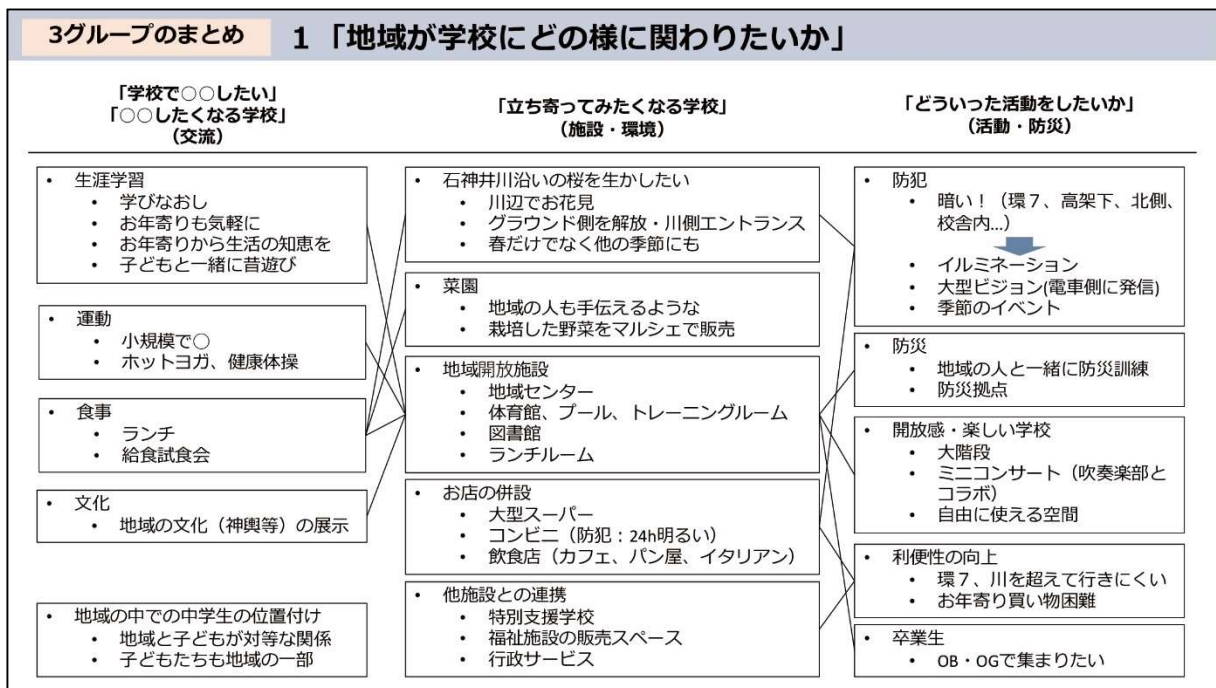
○グループBの意見



○グループCの意見



○各グループ出た意見のまとめ



地域の提言（総括）

① 地域交流について

- ・地域と学校の関わり方として、食事会などによる日常的な交流だけではなく、昔遊びや神輿の展示など地域文化の継承を目的とした交流ができるようにしてほしい。
- ・生涯学習の場として、子どもからお年寄りまで、地域住民の学びの拠点となるような新校舎としてほしい。
- ・健康体操やホットヨガといった地域住民同士の交流の場としてニーズがあるため、学校施設を一部開放できるようにしてほしい。

② 立ち寄ってみたいくなる学校（施設・環境）

- ・現況の石神井川沿いの桜並木を保全するだけでなく、お花見の場やギャラリースペースを設置してほしい。また、桜の季節だけではなく、四季折々の景観が楽しめるような植栽計画にしてほしい。
- ・体育館、プール、図書室など現状開放されていないエリアの地域開放や、スーパー・コンビニ・飲食店・スポーツジムなどと複合施設化することで、地域住民が学校と関わる機会を増やしてほしい。
- ・学校の図書室を地域図書館の分室とするなど、他の行政サービスとの連携も検討してほしい。
- ・丸みのある校舎形状、温かみのある外装色を採用するなど親しみやすい外観にほしい。

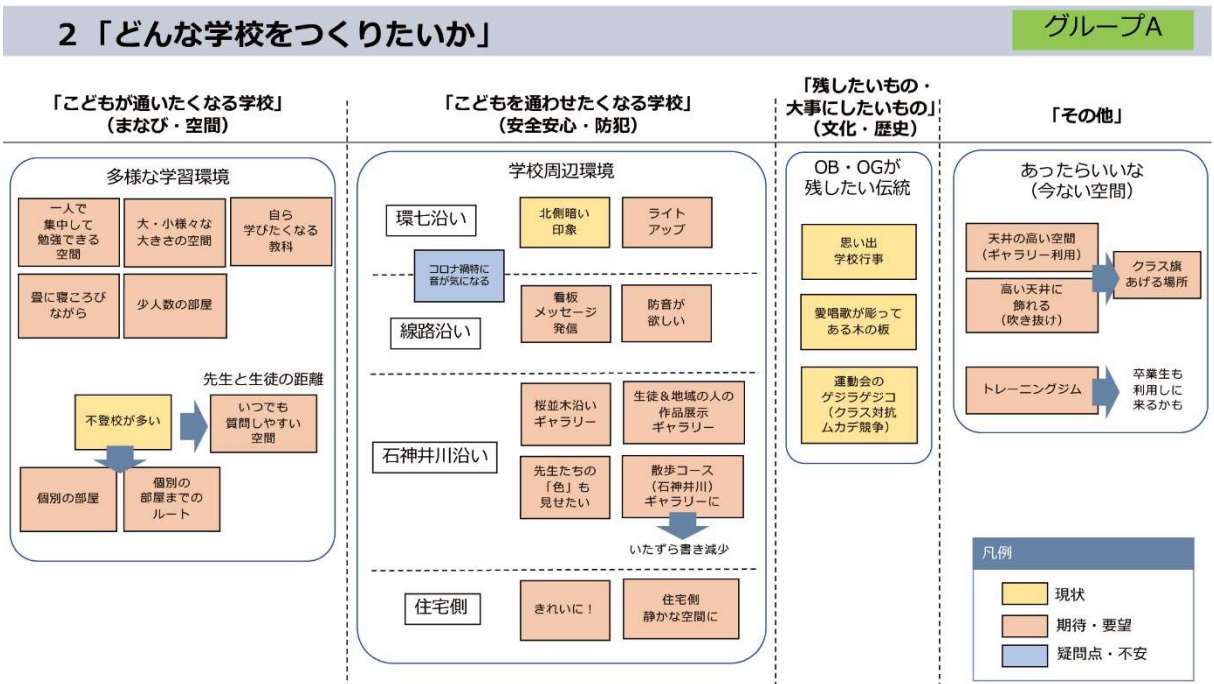
③ 学校での活動（地域活動・防災）

- ・敷地周辺の環状七号線沿い、高架下などの夜道が暗く危険を感じる。ライトアップするなど敷地周辺環境に対する改善をしてほしい。
- ・防災に対しての意識が高い地域であるため、周辺住民と一緒に実践的な避難訓練を行えるようにしてほしい。
- ・ギャラリーやミニコンサートに活用できる天井の高い多目的室や、吹き抜けを持った大階段など、開放的で明るく楽しげな空間を設置してほしい。

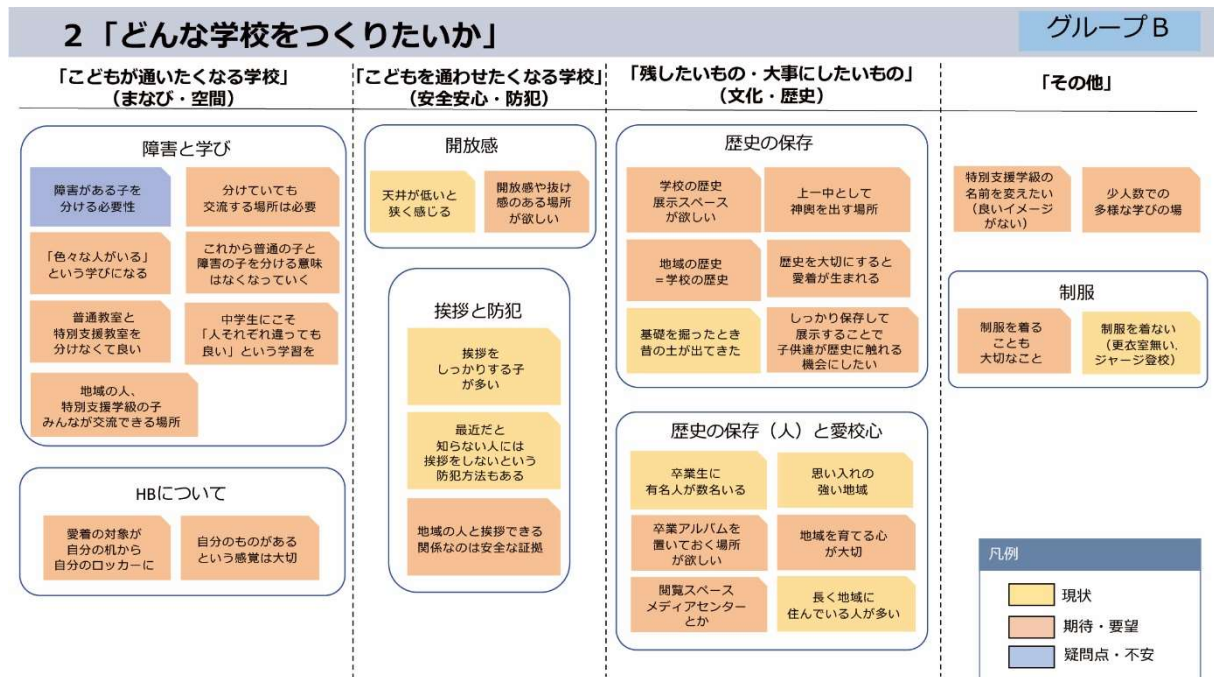
(2) どのような学校をつくりたいか

「どのような学校をつくりたいか」をテーマにワークショップ形式で検討を行った。

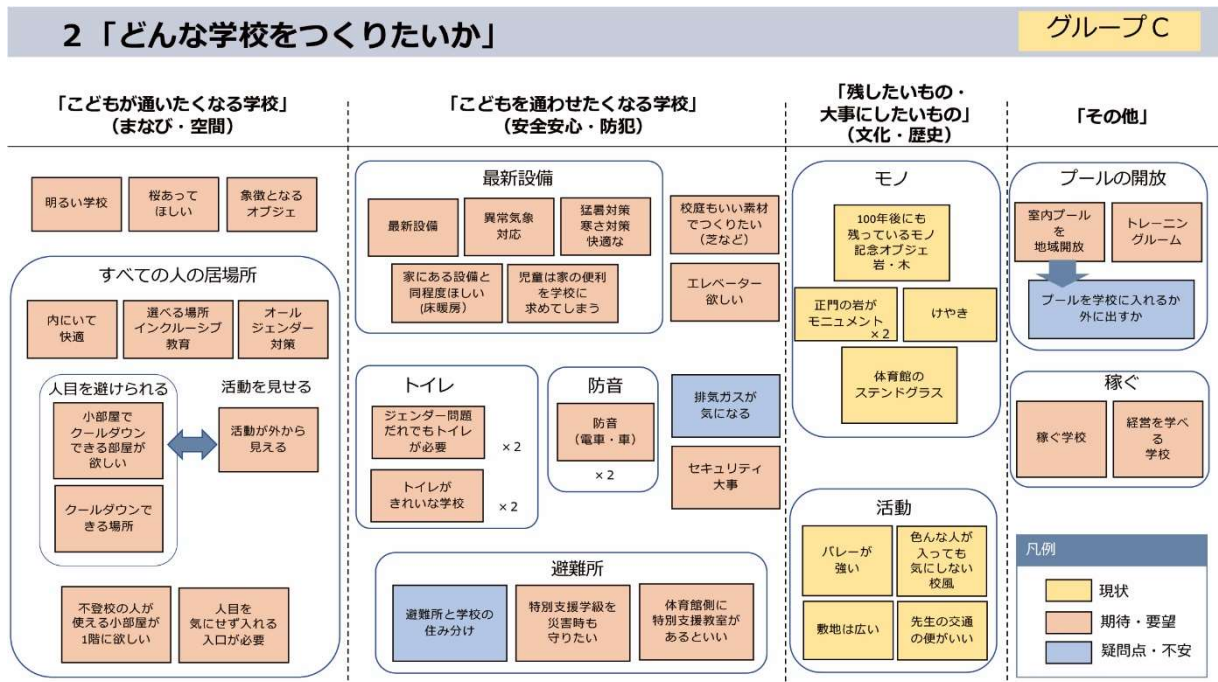
○グループ A の意見



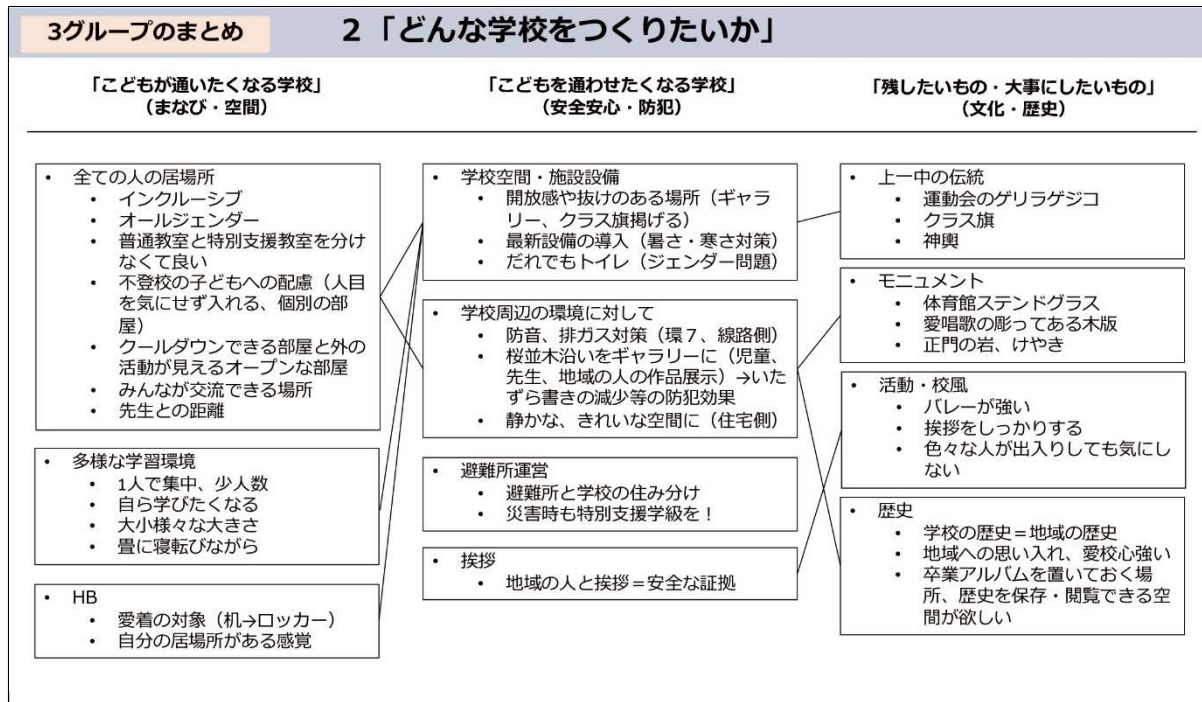
○グループ B の意見



○グループCの意見



○各グループ出た意見のまとめ



地域の提言（総括）

① 子どもが通いたくなる学校（まなび・空間）とは

- ・インクルーシブ、オールジェンダー、特別支援学級や不登校の生徒に配慮した、すべての生徒の居場所となるような学校づくりが必要である。
- ・子どもたちの勉強意欲を高めるため、一人あるいは少人数で集中して学習を行える小さな部屋や学年全体で集まれるホールなど、多様で選択性の高い学習空間としてほしい。
- ・教科センター方式となることで自分の机が原則なくなってしまうため、子どもたちが愛着を持てるホームベースづくりをしてほしい。

② 子どもを通わせたい学校（安心安全・防犯）

- ・開放感や視線の抜けがある空間としてほしい。また、死角を作らない空間づくりをしてほしい。
- ・最新の空調機器の採用や多機能トイレの複数設置など、居心地の良い室内環境づくりをしてほしい。
- ・周辺環境への配慮として、環状七号線や東武東上線に対する防音・排気ガス対策や、隣接する西側住宅地への騒音対策や美観について工夫してほしい。
- ・地上にあるプールを新校舎の屋上に配置することや、石神井川沿いからの視線を遮る囲障を設けることで、不審者対策をしてほしい。

③ 学校で残したいもの・大事にしたいもの（文化・歴史）

- ・クラス旗や運動会の伝統種目であるグリラゲジコなど、上板橋第一中学校ならではの伝統を残したい。
- ・体育館のスタンドグラスや愛唱歌の彫ってある木板・正面の岩・けやきなど、改築後も保存したいモニュメントを展示するスペースを新校舎に設けてほしい。
- ・卒業生や地域住民とのつながりを大事にするため、学校や地域の歴史を保存・閲覧できるギャラリーを新校舎に設けてほしい。

(3) 学校の配置

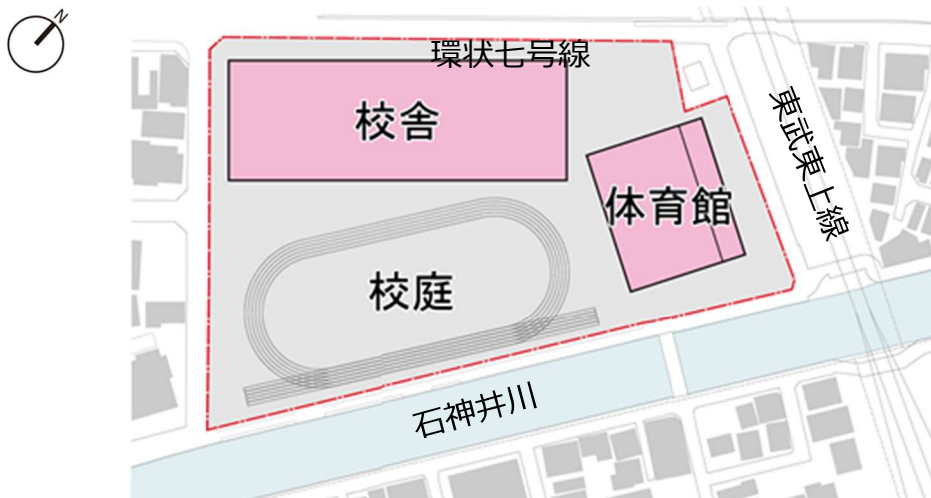
基本構想・基本計画策定支援事業者が上板橋第一中学校の敷地に対する法的条件や道路付けの条件整理を行った結果、以下の A 案から C 案の3案が提案された。

※詳細については、P.13 **参考資料** 1 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）を参照。

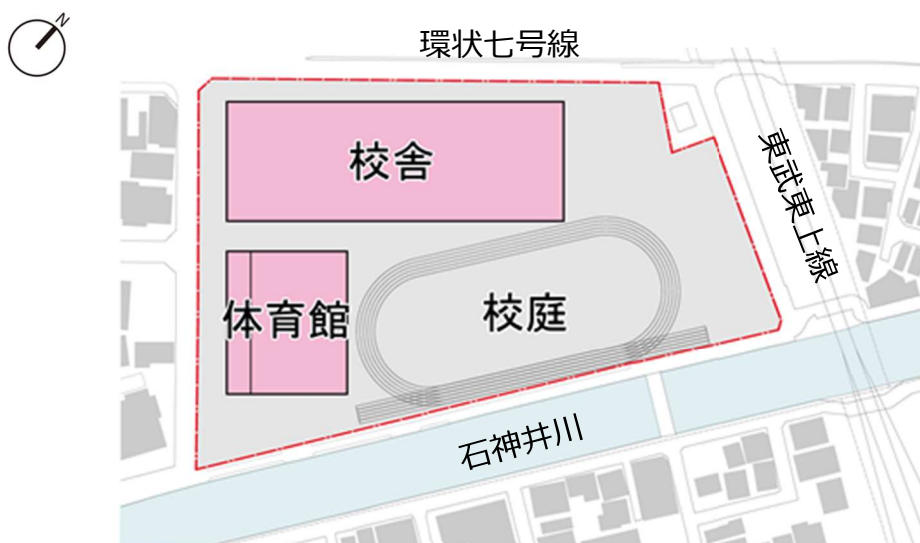
については、A から C 案の3案において活発な意見交換を行った。

<建物配置案>

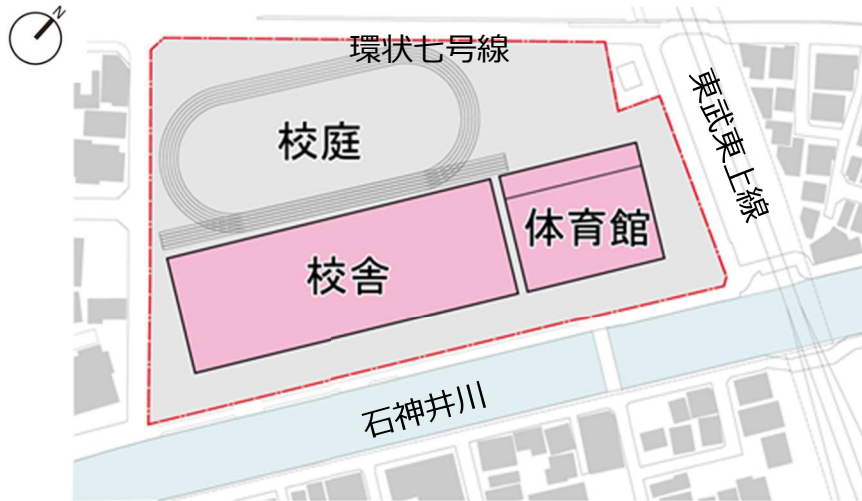
【A 案】校舎棟を敷地北側、体育館棟を敷地東側に配置する案



【B 案】校舎棟を敷地北側、体育館棟を敷地西側に配置する案



【C案】校舎棟、体育館棟を敷地南側に配置する案



○各グループの意見まとめ

	A案 校舎北-体育館東配置	B案 校舎北-体育館西配置	C案 南側一文字配置	その他
校舎配置イメージ 方位：				
キーワード 学習環境 ◆校庭 ・形 ・使いやすさ ・日当たりなど ◆教室 ・日当たり ・眺望など	Aグループ ●地域（環七側）に新しい校舎の顔を見せることができる ●既存校舎と大きさがあまり変わらない（校庭側の既存樹木分大きくしたくらい） Bグループ ●校舎から校庭が見やすい（行事の時等） ●校庭の形状が使いやすい ●車の搬入出動線がよい Cグループ ●南側教室、どの階も日当たり◎ ●体育館から東上線方向にメッセージ◎ ●教室から校庭が見えるのがよい ●既存とあまり形態を変えないのが近隣理解されやすい ●体育館の位置が地域利用されやすい	●地域（環七側）に新しい校舎の顔を見せることができる ●体育館が地域利用しやすい ●校庭が日当たり良いため、よく乾く	●校舎と環七・東上線の離隔を確保可能 ●校舎と石神井川が近くなり、景色良好 ●救急車両の動線確保が容易 ●生徒と車両の動線を分けることができる ●校舎から桜が見える ●川が近く、夏は涼しい ●環七からは開けた景色となる ●体育館の位置が地域利用されやすい	●正門は北側（環七側）が好ましい ●敷地北東側は有効活用したい ●校舎と体育館は一体が良い ●校舎の防音性能は高めてほしい ●屋内プールとし、地域活用しやすい環境になるとよい ●体育館・武道場は別棟としてセキュリティレベルを上げると貸出しやすい ●プールが電車から見えるのは避けてほしい
近隣環境 ・視線 ・日影 ・音 など	Aグループ ●校庭が既存より小さい Bグループ ●北側道路に校舎の影が落ちてしまう ●東上線側に体育館の騒音・振動 ●式典利用の時、電車・車の騒音が問題 ●川側から校庭が見られやすい	●校舎側に体育館の影が落ちてしまう ●土地の使い方がもったいなく感じる ●校庭の形状が使いにくい（校舎北側に空地ができる） ●体育館が住宅エリアに近いと苦情につながる恐れがある ●教室への日当たりが減る	●校庭側に校舎の影が落ちてしまう ●北側を正門とすると、校舎まで距離大 ●校庭から道路・線路にボールが入ってしまう危険がある ●川・下水の臭いが校舎に届く ●南側の建築制限により、校庭が狭くなる ●給食車入りにくい ●校舎が線路に近いと騒音が気になる ●西側道路が登下校ルートになると騒音× ●校庭側に校舎の影が落ちてしまう	

○配置案の比較表

	A案 校舎北-体育館東配置	B案 校舎北-体育館西配置	C案 南側一文字配置				
校舎配置イメージ 方位：							
学校環境	普通教室の日当たり	○	・両側に遮るものがなく、良好	△	・一部体育館の影となる教室が生まれる	○	・両側に遮るものがなく、良好
	普通教室からの眺望・環境	○	・校舎から校庭、石神井川沿いの桜を見ることができる（行事利用などが可能） ・環七からの騒音が懸念される	△	・校舎から校庭を見ることができるが、一部の教室は体育館に面してしまう	○	・石神井川を望むことができ、良好 ・川の悪臭問題が懸念される
	校庭の形、使いやすさ	○	・既存と同等の広いグラウンドが確保可能 ・使いやすい形状	△	・敷地北側など、土地の使い方がもったいない	△	・校庭の面積が最も狭い
	校庭の環境	○	・日当たり良い ・川側から校庭が見えてしまう	△	・校庭が一部、体育館の影になってしまう ・東上線からの騒音が懸念される	△	・校庭側に校舎の影が落ちてしまう ・他案に比べ、校庭が狭い ・環七からの騒音が懸念される
周辺環境	近隣への影響（視線）	○	・地域（環七側）に新しい校舎の顔を見せることが可能	○	・地域（環七側）に新しい校舎の顔を見せることが可能	○	・環七からは開けた景色となる
	近隣への影響（日影）	△	・環七側に校舎の影が落ちてしまう	△	・環七側に校舎の影が落ちてしまう	○	・近隣に日陰で影響を与える場所は少ない
	近隣への影響（音・騒音）	○	・住宅エリアと体育館が離れているため、音・振動が問題になりにくい	△	・体育館が住宅エリアに近く、騒音問題などが発生する可能性がある	○	・住宅エリアと体育館が離れているため、音・振動が問題になりにくい
	地域への開放性	○	・体育館の位置が地域開放等を考慮しやすい	○	・体育館の位置が地域開放等を考慮しやすい	△	・地域開放を考えにくい。 （校庭が開放しやすい？）

更に、別の案(D案、E-1案、E-2案)も提案した。(D案、E-1案、E-2案)

	D案	E-1案	E-2案
校舎配置イメージ 方位：			

- ・ A案の派生形と捉える
- ・ 継続検討

- ・ B案の派生形と捉える
- ・ 校庭が影になってしまうの点が好ましくない

- ・ 東上線沿いにまとまって建物を配置すると校庭が狭くなってしまふ
- ・ 校舎への車の寄り付きが難しい

地域の提言（総括）

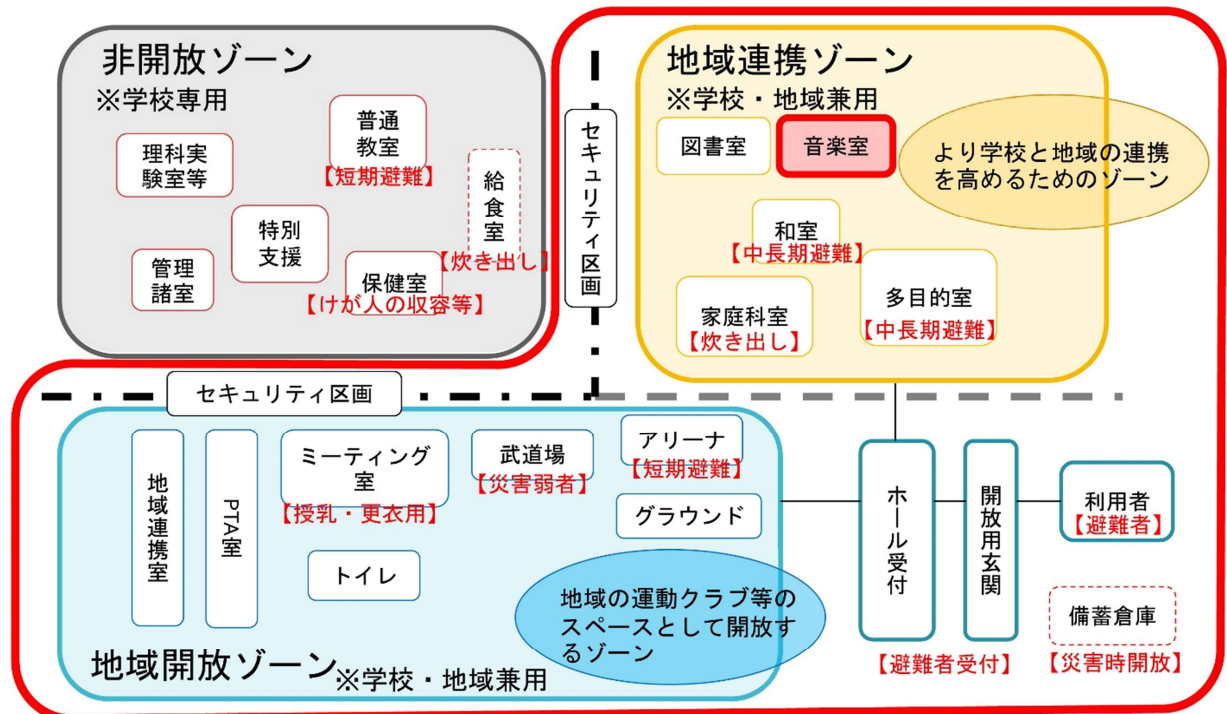
校舎の配置については、A案に良好な意見が多いため、A案を継続して検討してほしい。また、別案となるD案もA案の派生型と捉え、継続検討してほしい。

ただし、地域（環状七号線側）に新しい校舎の顔を見せる工夫や、地域開放しやすい体育館の工夫、住宅エリアへの騒音・振動対策や南側からの視線対策などの検討をおこなってほしい。

(4) 地域と学校の連携

(4) - 1 地域と学校が連携・協働する部屋

板橋区が定めている「板橋区立学校施設標準設計指針」の地域と学校が連携・協働するべき部屋を確認し、連携・協働するべき部屋の検討を行った。





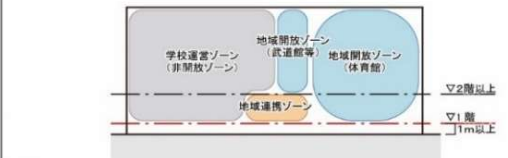

※【○○○】・・・地震時利用想定

地域の提言（総括）

区が定める「板橋区立学校施設標準設計指針」の、①地域と学校が連携・協働するべき部屋「図書室・和室・多目的室・家庭科室」、②地域開放するべき部屋「地域連携室・PTA室・ミーティング室・トイレ・武道場・アリーナ・グラウンド」に加えて、「音楽室」についても地域と連携・協働する部屋として可能性を検討してほしい。

(4) - 2 地域連携・協働ゾーンの配置と校地の利用

「地域開放ゾーン、地域連携ゾーン、学校運営ゾーンをどこに配置するのが良いのか?」、「体育館をどの階数に配置するのが良いのか?」、「建物の高さは低層と高層のどちらが良いのか?」について検討を行った。

	イ案(低層案3, 4階建て想定)	ロ案(高層案5, 6階建て想定)
配置・平面イメージ		
断面構成イメージ		
地域開放ゾーンの平面配置	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館は線路側にあつた方が日常利用だけでなく避難所としても利用しやすい。 ● 車両進入口が西側になるため、駐車場との関係を考える使いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館・武道館が住宅地側にあるため、騒音対策が必要になる。 ● 車両進入口が西側になるため、駐車場との関係を見ると体育館は西側が良い。
地域開放ゾーンの断面構成	<ul style="list-style-type: none"> ● 体育館が1階にあるため、地域開放されたときに使いやすい。 ● 体育館1階配置の場合、浸水域想定ライン(1m以上)に床がくるため、スロープが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 武道場が1階にあるため、地域開放されたときに使いやすい。 ● 体育館を上階に配置する場合は避難弱者にも対応した大きなエレベーターが必要。
校地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ▲ 新校舎の建築面積が現在より大きくなるため、グラウンドの広さが現在と比較すると、少し狭くなってしまふ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在以上のグラウンドの広さが確保されている。 ● 線路側については、テニスコートや将来の増築用地としても活用できる。

地域の提言（総括）

<地域連携・協働ゾーンの位置について>

日常利用、災害時の避難所運営、帰宅困難者への対応を考えると東武東上線に近接している方がよいため、「地域開放ゾーン」の視点からはイ案を継続して検討してほしい。

ただし、駐車場や構内車路を適切に配置し、車両の搬出入動線と給食室などの諸室配置を考慮して、ゾーニングを決定してほしい。

<体育館・武道場の位置について>

体育館は、浸水想定高さが1mとなるため、体育館床の高さを地面から1m以上とする必要がある。体育館を1階に設置した場合でも、バリアフリーの観点からスロープが必要となる。車椅子が利用可能なエレベーターを設置すれば、体育館を上階に設置することも可能であるため、武道場の配置と併せて、総合的に検討してほしい。

<校地の利用について>

改築後の校舎の面積は既存校舎に比べて増加するため、建物を既存と同じ3~4階建てにした場合にグラウンドの面積が現在より狭くなってしまふ。このことから、グラウンドの広さを確保するため、5~6階建ての高層案も検討してほしい。また、建物を5~6階建てにすることで敷地北側に空地ができることから、テニスコートの設置や将来の増築用地など有効に活用することについても検討してほしい。

II 参考資料

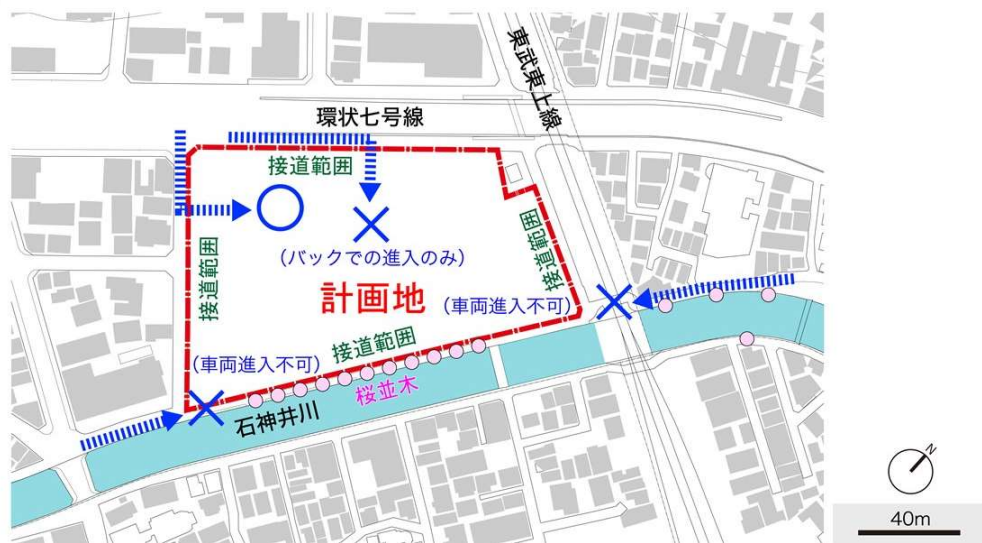
1 敷地条件の整理（基本構想・基本計画策定支援事業者による整理）

計画敷地において、

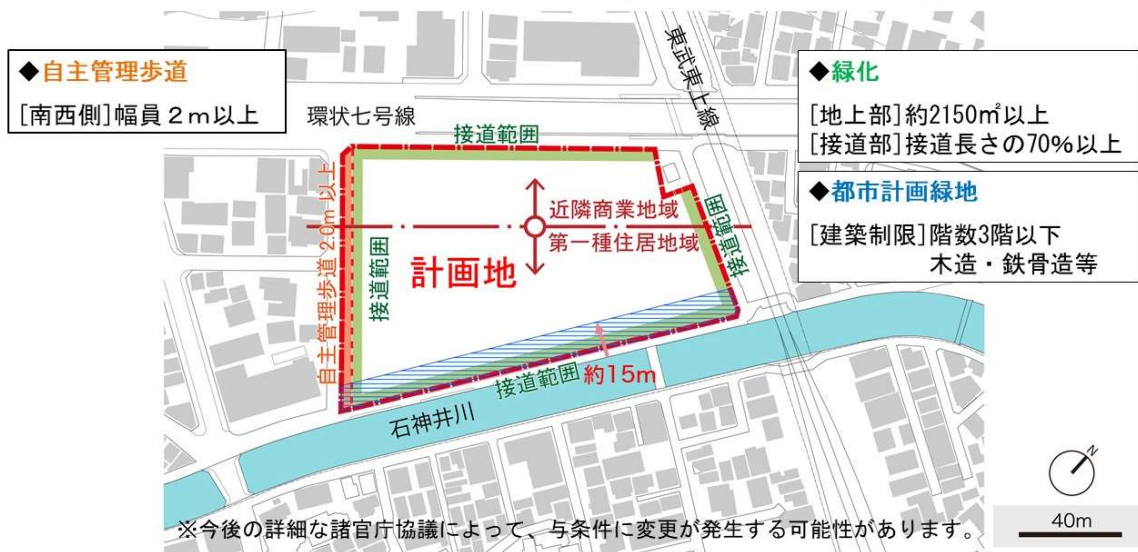
- ①車両動線
- ②条例等による制限
- ③建築基準法の日影規制等による形態制限

による整理を行った結果、A～C案の3案が提案されました。

①車両動線

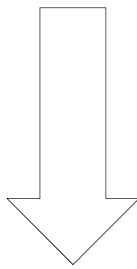
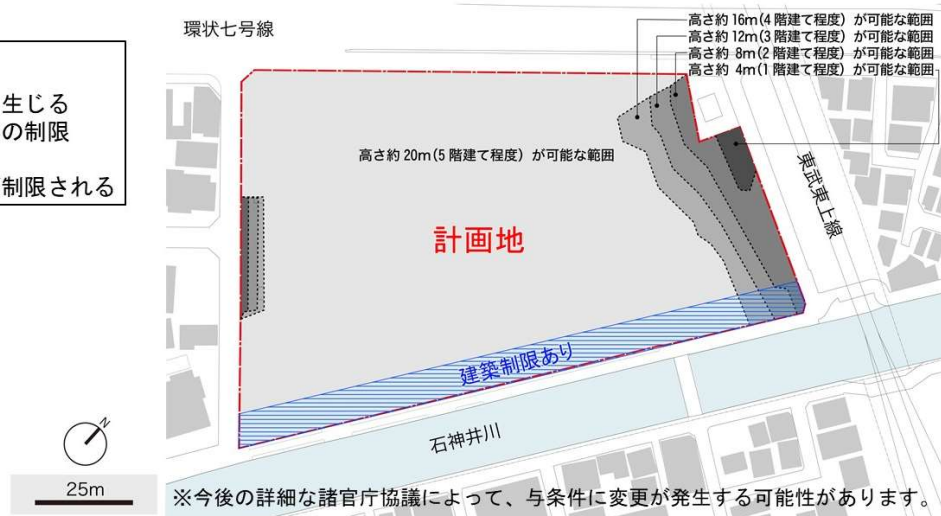


②条例等による制限



③建築基準法の日影規制等による形態制限

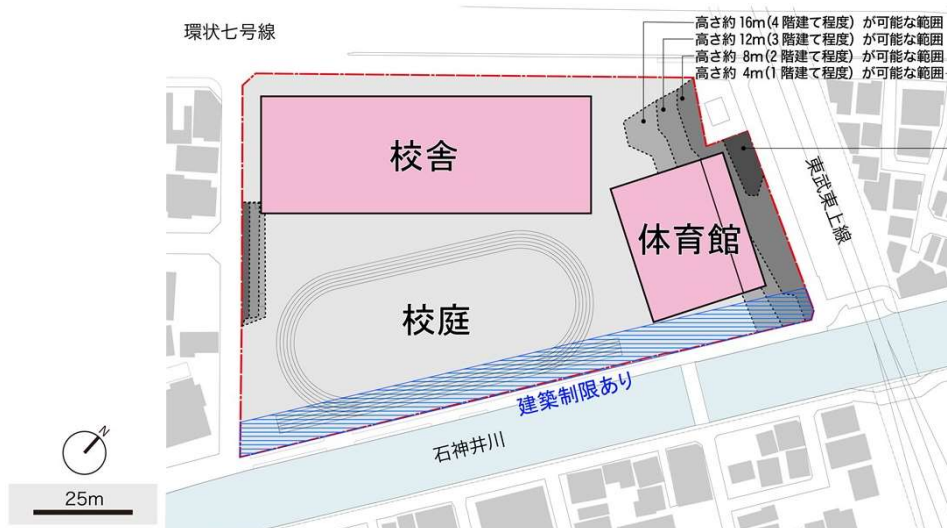
◆逆日影
 建物によって生じる敷地外の日影の制限
 ⇒ 建物の高さが制限される



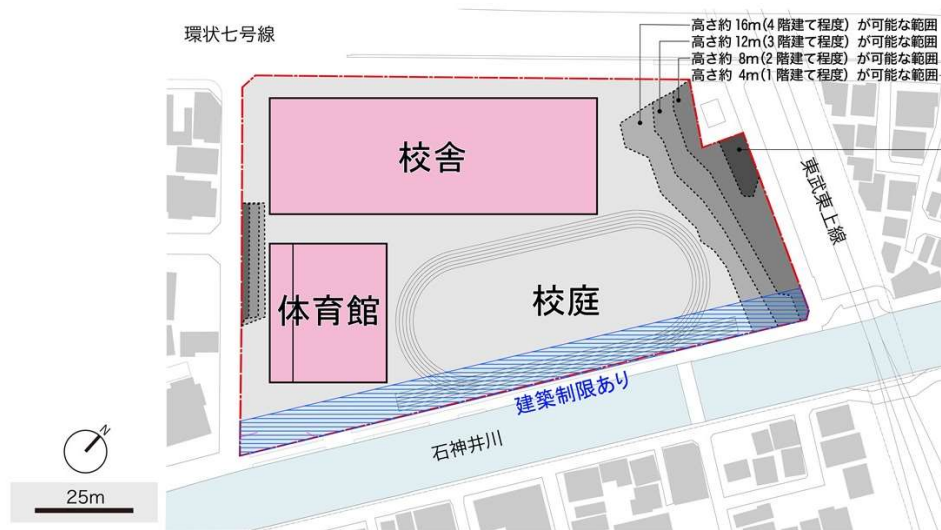
①～③における条件整理を行った結果、建物配置案 A 案～C 案を提案

<建物配置案>

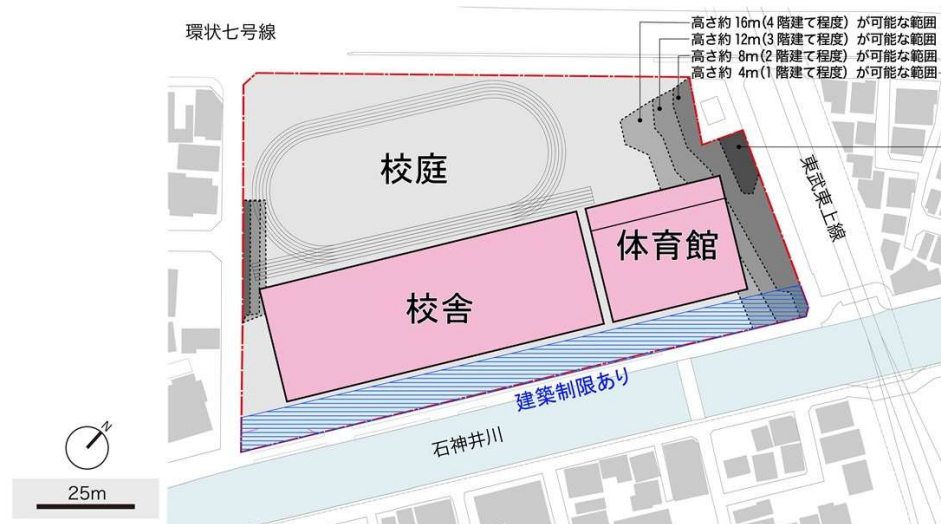
【A 案】



【B 案】



【C 案】



2 活動経過

- 令和3年10月20日 「上板橋第一中学校改築検討会」を設置
新しい上板橋第一中学校の基本構想・基本計画に対して地域からの提言を行うため、「上板橋第一中学校改築検討会（以下、改築検討会という。）」を設置しました。
- 令和3年12月8日 第一回改築検討会を実施
基本構想・基本計画の目的やスケジュールの確認を行いました。
- 令和3年12月16日 第一回ワークショップを実施
改築検討会の提言に向けて活発な意見交換を行うため、ワークショップを実施しました。
ワークショップのテーマ：「地域としてどのように関わりたいか、どんな学校を作りたいか」
- 令和4年1月20日 第二回ワークショップを実施
ワークショップのテーマ：「建物配置を考えてみよう」
- 令和4年2月10日 第三回ワークショップを実施
ワークショップのテーマ：「地域と学校のかかわり方」
- 令和4年3月22日 第二回改築検討会を実施
ワークショップで出た意見を集約し、基本構想・基本計画への提言書をまとめました。

3 ワークショップの様子

「第1回ワークショップ」

第1回ワークショップでは、改築プロジェクトのアドバイスをいただいている齋尾直子先生（東京工業大学准教授）と研究室の学生の皆さんをお招きして、学校づくりの先進事例などをご講義いただきました。その後、3グループに分かれ「地域が学校にどの様に関わりたいか」、「どんな学校をつくりたいか」をテーマに意見交換を行いました。



■齋尾先生から国内外の多様な学習空間の事例についてご講義いただきました。

「地域が学校にどの様に関わりたいか」

- ・子どもからお年寄りまで、全ての地域住民の生涯学習の場としての可能性
- ・文化継承、地域交流の場としての開かれた学校の在り方
- ・地域の人も手伝えるような菜園併設の可能性

など、地域と学校の関わり方について様々なアイデアが出ました。



■意見交換では、様々なアイデアが出ました。

「どんな学校をつくりたいか」

- ・大小様々な空間を選択できる学習空間
- ・不登校の子どもへの配慮
- ・石神井川沿いの景観を活かした毎日通いたくなるような学校
- ・学校の伝統であるクラス旗や、地域の神輿など、歴史を語り継ぐギャラリーなど、多様な学習空間や毎日通いたくなるような雰囲気づくり、残したい歴史や文化についてアイデアが出ました。



■グループの意見交換後には発表を行いました。

「第2回ワークショップ」

第2回ワークショップでは、始めに現校舎のある「計画地の与条件」（敷地の道路付け、建物高さの制限など）について確認しました。その後、グループに分かれ『建物の配置を考えよう』をテーマに、計画条件を踏まえた3つの案に対し、意見交換を行いました。

- ・A 案：校舎北 - 体育館東配置
- ・B 案：校舎北 - 体育館西配置
- ・C 案：校舎 - 体育館南側一文字配置



■校地にかかる様々な与条件を確認しました。

「建物の配置を考えてみよう」

- ・北側（環七側）に校舎があると地域に新しい校舎の顔を見せることができ良い（A・B 案）
- ・体育館の位置を西側にする場合は住宅エリアに対して騒音対策が必要（B 案）
- ・校舎の影が校庭に落ちるのはよくない（C 案）

など、建物配置の各案に対し、様々な意見が出ました。

また、どの案に対しても共通で、

- ・グラウンド面積は現在と同等以上確保したい
- ・体育館は地域開放を意識した配置としたい
- ・プールの配置は外部からの視線を考慮すべき

といった意見が出るなど、上一中の建物配置において重要視すべき点が明確になったワークショップとなりました。



■模型を使って、様々な意見交換を行いました。

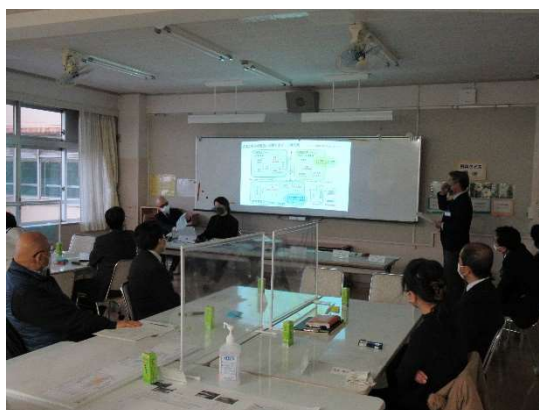


■グループの意見交換後には発表を行いました。

「第3回ワークショップ」

第3回ワークショップでは、始めに地域と学校の関わり方について、板橋区の方針、地域と学校の開放・連携が想定される室とその構成案について説明を行いました。その後、「地域開放、連携ゾーンを考えよう」をテーマに、上記構成案に沿った2案を提示し、平面・断面の2つの視点から意見交換を行いました。

- ・イ案:低層案/敷地北東側に地域開放ゾーン
- ・ロ案:中層案/敷地西側に地域開放ゾーン



■地域と学校の連携について、区の方針を確認しました。

「地域開放、連携ゾーンを考えよう」

・体育館は線路側にあった方が日常利用だけでなく避難所としても利用しやすい(イ案)
・グラウンドを大きく確保でき、将来の増築の用地として考えられる点が良い(ロ案)
・車両進入口が西側になるため、駐車場との関係を考えると体育館は西側が良い(ロ案)
など、地域開放・連携ゾーンの位置について、様々な意見が出ました。

また、どちらの案に対しても共通で、

- ・音楽室、プールも開放できると良い
- ・体育館を上階に配置する場合は避難弱者にも対応した大きなエレベーターが必要

など、地域と連携・協働する学校づくりや避難拠点として必要となる機能について様々な意見・アイデアが出ました。



■地域開放、連携ゾーンについて意見交換を行いました。



■各グループの意見交換後には発表を行いました。

4 「上板橋第一中学校改築検討会」検討委員名簿

※順不同

氏 名	所属等	備考
長岡 直行	上板橋第一中学校校長	会長
鳥居 克己	上板橋第一中学校副校長	副会長
大邑 涼	保護司	
岩崎 忠雄	常盤台一二丁目町会長	
浅見 亨	元本校PTA会長	
小林 美香	天祖神社宮司	
柴田 寿子	仲町地区青少年委員	
円崎 若菜	元本校PTA会長	
山口 卓臣	現本校PTA会長	
中村 とらあき	同窓会会長	
谷田 千穂	学校支援コーディネーター	
青沼 優子	学校支援コーディネーター	
中里 真一	都立北豊島工業高等学校校長	
齋藤 裕子	仲町地域センター所長	
鶴田 章子	上板橋小学校校長	
沼田 茂雄	上板橋第一中学校主幹教諭	
佐藤 法子	上板橋第一中学校主幹教諭	
小玉 智久	上板橋第一中学校主幹教諭	

事務局：板橋区教育委員会事務局新しい学校づくり課